

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

↓年度当初

学校番号	9	学校名	甲府城西高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	722 名
スクールポリシー (学力に関するもの)	1 学習指導の工夫・改善に努め、自ら学び、考える力を育む。 2 授業を通して4つの力(理解する力、収集する力、まとめる力、伝える力)を育む。 3 体験的な学習を重視し、興味・関心・意欲を高め、学び続ける力を育む。 4 指導の狙いを明確にしICTも活用する中で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に努める。						
グラデュエーション ポリシー	1 主体的に学び続ける力を育む(主体性) 2 創造性を高める思考力・判断力・表現力を育む(創造性) 3 心身を鍛え、豊かな人間性を育む(人間性) 4 規範意識を高め、社会性を育む(社会性) 5 社会の情勢を意識し、主体的に社会と関わる態度を育む(協働性)						

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ	
<input type="checkbox"/>	自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
<input type="checkbox"/>	目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
<input type="checkbox"/>	ICTの利活用による「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
<input type="checkbox"/>	文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組

具体的な取組	
取り組みテーマに準じた研究テーマを設定し、先生方に1年間取り組んでもらった。年度はじめの授業改善推進委員会の中で、1年間の授業改善のための具体的な取り組みを定め、5月の職員会議で示した。主な取り組みは次の3つ。 ①「授業アンケート」の実施に各教科で取り組んでもらい、その結果を教科内で共有し授業改善してもらおう。 ②相互授業参観の実施。(具体的な方法を示す中で。) ③授業の中で、生徒のBYODを活用するために職員研修の実施。	

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)	R7中間	R7末
(各校の授業アンケートに基づく)		
1.自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	85.4%	89.2%
2.活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	81.1%	87.0%
3.授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	87.1%	90.1%
4.授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	87.5%	90.2%
5.授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	77.0%	83.7%
6.授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う)	89.3%	90.9%
7.授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う, ②そう思う)	86.2%	89.1%
8.他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	85.1%	88.7%
9.学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	89.9%	91.3%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)	
各教科による授業アンケートの実施や相互事業参観の実施によって、先生方が常に授業改善を意識する環境づくりが有効に働いている。ICTの活用については、例年、生徒のBYODの活用をどうしていくかが課題になっているが、教科ごとの特色を生かした活用が定着しつつあり、また、教科によっては、新しい使い方に積極的にチャレンジしている、全教職員が、活用を意識した授業改善に取り組んでいる状況である。教職員が生徒のBYODの扱い方に慣れてきているので、生徒自身の活用も、以前よりスムーズになってきている。多忙化の中、ICT活用の新しい取り組みによって、少しでも多忙化が解消できるような活用を考えていくことが今後の課題である。	

各教科の取組		※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。			
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組	
国語	実社会に必要な国語の知識や技能が身に付いている。	4.4	4.5	実社会で必要となる基本的な語彙や漢字の読み書きなどをプリントやBYODを活用した学習で定着を図った。ICTの活用等で定着を図ることを目論んだが、知識の定着には「書く」が必要だと痛感した。次年度は書かせる機会を増やしたい。基本的な文章読解の手法に関して論理的な準備を進める中で段階を踏んで身に付けることができていると感じる。	
	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において論理的思考力や想像する力を伸ばし、他者と関わる中で伝え合う力を高め自分の考えを広げることができている。	4.4	4.4	新学習指導要領に従った授業も3年目となり、思考・判断・表現の力を年次を巡って段階的に身に付けさせる計画は出来つつある。しかし「話すこと・聞くこと」の評価の部分が相変わらず難しい。発表したり、伝える力を相応に評価する方法を研修・研究をする中で模索を続けていきたい。	
地公	言葉を通して積極的に他者と社会と関わり、言葉が持つ価値への認識を深めようとする自覚や姿勢がある。	4.3	4.4	「積極性」や「主体的に学ぶ」姿勢をいかに客観的に公平さをもって評価するかの部分に相変わらず苦労している。AIを使った評価も検討していきたい。	
	地理や歴史の基本的諸事象を理解し、現代社会の課題と結び付けて考え、まとめる技能が身に付いている。	4.2	4.2	現代の個々の諸事情を理解しているが、それらのつながりや因果関係までは理解していない。今後は知識と知識のつながりや関係を意識し指導していきたい。	
	現代社会の諸課題を地理や歴史の基本原則と結び付けて考察し、事実をもとに多面的、多角的に考え判断する力が身に付いている。	3.8	3.8	細かい問いを設定したことで考察することができるようになったが、複数の資料を比較したり考察したことを自分の言葉でまとめたり表現することに課題があった。	
数学	主権者として現代社会の諸課題を主体的に追究し、公正に判断し、よりよい社会の実現に向けて課題を解決しようとする態度が身に付いている。	3.9	3.9	単元の最後に振り返りシートに取りまとめたことで自らの学びを振り返ることができた。意見をまとめたり文章にして伝えたりすることも意識して指導していきたい。	
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈・表現・処理する技能を身に付けることができる。	4.1	3.7	基本的事項を理解し、様々な事象に取り組み技能は身に着いてきている。しかし定着までは至っていないため、他の意の課題に活用できていない。基本的事項の定着のため、繰り返しの演習や、ICTなどを活用した主体的な復習を促していきたい。	
	事象を的確に表現し、その特徴を数学的に考察する中で、問題を解決したり判断することができる。	4.1	3.7	身に付けた知識や技能を、他の事柄に活用することが苦手なため、思考を問う問題の成績評価が全体的に低いことが課題である。より深く考え、活用できる力をつけるために、協働しながら考える時間を増やしていく必要がある。	
	数学のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的に判断したり考察しようとする態度、評価・改善したりしようとする態度が身に付いている。	4.2	4	OPPAを活用し、生徒自身が授業内容を振り返れることで、自己理解を高める力が身に付いてきている。来年度もその取り組みを引き続き実施していく。	
理科	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。	3.9	4.3	ICTやBYODを活用し、自ら学んで得た知識や技術を用いて、身近な事象について論理的かつ科学的な視点で捉えることができるようになってきた。	
	観察、実験、実習のなかで、科学的に考察し、論理的かつわかりやすく表現することができる。	4	4.2	基本的な知識を習得したうえで自由な発想で課題に取り組み、思考する力を身に付けられるようになった。今後は表現することの工夫をさらに身につけさせたい。	
英語	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする姿勢がある。	4	4.3	授業で学んだことを、自分の身の回りの身近な事象に関わりあるものとして捉えられるようになった。今後もさらに探求を深め多面的に試行していくことが大切である。	
	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きについて理解を深め、目的や場面、状況等に応じて適切に活用できる。	4	4.2	授業を通し、多くの生徒が基礎知識や語彙を理解し活用できるようになった。今後は家庭学習の促進や学習支援を継続し、知識・技能の定着を図る。適切な発音や表現の習得のため、音読・会話練習も継続指導する。	
	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり伝え合ったりすることができる。	4	4.2	学習した内容を積極的に活用しようとする生徒が多く見られた。場面や目的に合わせて自分の意図を伝える課題を多く設定し、実際の場面でコミュニケーション能力を身に付けさせたい。	
芸術	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	4	4.2	学んだことを生かし主体的にコミュニケーションを図ろうとする生徒が多い。ALTとの交流も含め実践的な活用場面を増やし、外国文化への興味や、意思疎通することへの関心・意欲を高めていきたい。	
	各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付けている。	4.5	4.4	歌唱や器楽領域において、ICTを活用しながら歌唱方法・奏法を分析し、取り組むことができた。しかし、定着までには至らないため、継続的な指導を心がける。	
	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	4.5	4.4	思いや意図をもって表現することにおいて課題が見られる。各芸術教科の見方・考え方の指導を充実していきたい。生徒自身が根拠をもった表現をできるようにしていきたい。	
家庭	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い豊かな情操を培う。	4.4	4.4	多くの生徒が生活や社会を通して芸術に嗜もうとしていた。音楽においては、日常生活の生活音に着目しながら音に触れているため、創作表現にもつなげていきたい。	
	生活を主体的に営むために生涯に必要な基本的な知識について理解し、基礎的な技術を身に付けることができる。	4.6	4	実習では、多くの生徒が積極的に取り組むことができた。しかし、知識面では、教科書の内容の理解力に個人差がみられた。	
	家庭や地域社会の生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現する力を身に付けることができる。	4.5	3.8	多くの生徒は、グループワークを通して課題発見力・表現力を身に付けた。次年度も引き続きグループワークなどを通してそれらの力や課題解決能力が身につくよう工夫したい。	
保体	家庭科で学習したことを様々な人と協力し、自分や家庭、地域社会の生活向上を図るために実践しようとする態度が身に付いている。	4.5	3.9	多くの生徒が、家庭や地域生活の充実向上について自ら学ぼうとする姿勢がみられた。次年度も生徒が主体的・協働的に取り組むことができるよう授業づくりを工夫したい。	
	各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けることができる。	4.5	#REF!	実技教科ゆえの課題として、二極化が挙げられる。実技を苦手とする生徒への細やかな指導はもちろんのこと、成長や達成感を味わえるような授業展開を模索したい。	
	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力とともに、他者に伝える力が身に付いている。	4.4	#REF!	自己の課題を見つけ、互いに教え合う姿が見られた。今後も気軽に質問したり教え合ったりできる環境を整えていきたい。また、ICTを積極的に活用する場面も設定していきたい。	
情報	生涯にわたって継続して運動に親むるとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度が身に付いている。	4.6	#REF!	様々な種目に触れさせることで、生涯スポーツへの理解を深めさせていきたい。わからないことや興味を持った内容を積極的に調べたり、仲間と関わり合う中で運動を楽しむ方法を考えたり、意欲的に取り組む姿が見られた。	
	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	4.4	4.3	目標の資質・能力は、ほぼ身に付けさせることができた。次年度も同様に取り組んでいきたい。	
	問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を適切かつ効果的に用いることができる。	4.2	4.2	目標の資質・能力は、ほぼ身に付けさせることができた。次年度も同様に取り組んでいきたい。	
総探	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善することができる。	4.2	4.1	主体的に学び、自ら評価し改善することについては、ほぼほぼ目標に達することができた。ここで学んだことの、この教科以外への活用を働きかけていきたい。	
	探究の過程において課題の発見と解決に必要な知識、技術を身につけ、探究の意義を理解している。		4.4	テキストやワークシートを利用し探究の過程を学ぶことができた。探究の技法を継続指導し、自分の関心や進路に関連した探究が自己の将来や社会にとり意義あることを理解させたい。	
	地域と自己の関わりから課題を設定し、情報収集し、整理・分析してまとめ・表現をしている。		4.3	地域課題や各自の関心や進路に応じた探究に取り組んだ。課題設定、情報収集、整理・分析・まとめのサイクルにさらに主体的に取り組めるよう指導し、探究の質を高める。	
自己の進路に関連した課題を設定し、解決方法を探究することで、よりよい社会を協働して実現しようとしている。		4.3	問題解決のために考察を重ね、意欲的に取り組むことができた。課題解決のために実行可能なアクションを考えさせることで、よりよい社会の実現を目指す姿勢を養いたい。		

